

令和6年度 学校経営計画に対する中間報告書(案)

石川県立七尾東雲高等学校						
重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	分析(成果と後期への課題)	判定基準
1 学習環境の充実と「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくり、「わかる授業」の取り組み	① 落ち着いた雰囲気の中で日課をスタートさせるために5分間の朝学習にしっかり取り組ませる。	全学年 生徒指導課	【成果指標】 生徒全員が落ち着いて朝学習に取り組んでいる。	落ち着いた雰囲気の中で、朝学習に取り組んでいると答える生徒の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 B 評価 87% (昨年=88%) A 44% + B 43% = 87% 4月～7月 平均1日あたり4.53人	昨年度中間報告では、遅刻者数は1日平均4.45人であった。今年度は1学期末までの遅刻者数は1日平均4.53人となっており、昨年度に続き遅刻者数が多い状態が続いている。今後保護者と連携をし、生徒が時間に余裕を持って登校し学習に臨むよう指導していきたい。	Dの場合、改善策を検討する。
	② わかりやすい授業づくりの一環として、特にクロムブック等のICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。	教務課 各教科	【努力指標】 教員が、ICT機器を積極的に活用し、授業改善に努めている。	生徒による授業評価において「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 ※ ただし、実習科目を除く A 評価 88% (昨年=86%) A 60% + B 28% = 88%	生徒による授業評価では、教員が「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価は88%であった。昨年度と比較すると、86%から2%増加しており、クロムブック等の活用が進んでいるといえる。一方で、どのような場面でどのようなソフトをどう活用すべきかなど、様々な課題があり、今後も研究・改善が必要である。	C以下の場合、改善策を検討する。
	③ 主体的・対話的な授業づくりを目指し、発表活動を効果的に取り入れ、生徒が意欲的に授業に取り組めるようにする。	教務課 各教科	【満足度指標】 生徒が、主体的に授業に参加し、対話的に学習していると感じている。	生徒による授業評価において「生徒が発言や発表、学びあいをする場面が大きい」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 A 評価 90% (昨年=87%) A 57% + B 33% = 90%	生徒による授業評価において、「生徒が発言や発表をおこなう場面が多い」と回答する肯定的評価は90%となり、昨年度の87%から3%増加した。新型コロナウイルスが一段落し対話的学習が実施しやすくなり、生徒指導の三機能を活かした授業を推進してきた効果ができてきていると考えられる。	B以下の場合、改善策を検討する。
	④ わかりやすい授業づくりを目指し、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。	教務課 各教科	【満足度指標】 生徒が「授業を受けて、理解できた」と感じている。	生徒による授業評価において「授業を受けてよく理解できたと感じる」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 A 評価 94% (昨年=92%) A 64% + B 30% = 94%	生徒による授業評価において、「授業を受けて理解できたと感じる」「教え方を工夫している」と回答する肯定的評価は94%であった。昨年度と比較して2%増加した。「わかる授業」における互見授業などの取り組みの成果ができていていると考えられるので、今後も継続していきたい。	C以下の場合、改善策を検討する。
2 生徒の適性に応じた志望進路の実現	① 生徒が主体的に将来の進路をしっかり考え、進路実現に向けて取り組むよう、各事業の事前・事後学習を充実させる。	進路指導課 学級担任	【満足度指標】 生徒が「進路ガイダンスが主体的に将来を考える上で役立っている。」と感じている。	学校の進路説明会、企業実習等が、主体的に将来を考える上で役立っているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 A 評価 90% (昨年=90%) A 40% + B 50% = 90%	1年生が93%(昨89)、2年生が87%(89)、3年生が92%(91)と進路活動が本格化する3年生の評価は例年高いが、1年生の評価が今年度は高い。進路行事に大きな変更はないので、学年毎の活動や担任の指導の影響が大きいと思われる。	B以下の場合、改善策を検討する。
	② 生徒と保護者が進路について話し合う機会を持てるよう、資料や情報を活用しながら面談等で働きかけ、生徒の進路意識の高揚を図る。	進路指導課 学級担任	【成果指標】 家庭で、生徒と保護者が進路について話し合う機会を持っている。	家庭で、生徒・保護者が将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 B 評価 78% (昨年=79%) A 28.5% (保 23%, 生 34%) B 49.5% (保 56%, 生 43%) A + B = 78%	保護者の回答で、1年生が72%(昨72)、2年生が79%(82)、3年生が89%(87)となっている。2年生の数値が下がった。進路意識の向上のため保護者との連携がさらに求められる。求人票をPCやスマホで閲覧できるので、2年生の保護者にも閲覧を広げていくことを進めたい。	B以下の場合、改善策を検討する。
	③ インターンシップ前に、実施の目的を丁寧に説明し、基本的な接遇指導を繰り返し徹底して行う。	進路指導課 学級担任	【成果指標】 インターンシップにおける生徒の接遇態度が良い。	受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関する肯定的に評価した企業数 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 A 評価 100% (昨年=99%) A 91% + B 9% = 100% 実習日誌(研修担当者評価)	昨年度の協力企業は18社だったが、今年度は32社となった。ほとんどの企業の実習による評価は良好であった。長期型企業研修は、総合学科ビジネス系列は7月に実施し、農業系列と工業科は9月実施予定である。	C以下の場合、改善策を検討する。
3 特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成	① 生徒指導課と教職員、公安委員で「朝のあいさつ運動」に取り組む。	生徒指導課 特別活動課 部活動	【成果指標】 生徒が相手の目を見て自分から進んで大きな声で挨拶できている。	生徒の学校評価において「積極的なあいさつができている」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 C 評価 74% (昨年=75%) A 23% + B 51% = 74%	前期は6月に公安委員会と前期生徒会役員で朝のあいさつ運動を実施した。後期は、様々な形で多くの生徒を巻き込みながら朝のあいさつ運動を継続していくとともに、授業のはじめとおわりのあいさつや廊下ですれちがった時などの日常的なあいさつの指導も粘り強くしていく必要がある。	C以下の場合、改善策を検討する。
						7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
						7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価) アンケートでは実習科目を除く。
						7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
						7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
						各学年の進路行事の際に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
						7月と12月に、生徒・保護者にアンケートを実施する。 (生徒・保護者の学校評価)
						7月の実施後、受け入れ企業にアンケートを実施する。
						7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)

重点目標		具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	分析（成果と後期への課題）	判定基準	備考
		② 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等の参加を積極的に推進していく。	特別活動課 学級担任	【満足度指標】 生徒が、ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、自己有用感が高まったと感じている。	ボランティア活動や地域への貢献活動等を通して、ボランティア精神や自己有用感が高まったとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 A 評価 82% (昨年=75%) A 32% + B 50% = 82%	ボランティア週間では、ボランティア委員に役割を与えたことによる責任感と達成感の高まりや、特によい活動を発表することによる「よいところを見つきたい、よい活動をしたい」というボランティア意欲の高まりの結果、自己有用感が高まったとする肯定的評価が82%となった。地域への貢献活動については、新たなものを検討する必要がある。	Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
		③ 基本的な生活習慣の確立のため、1日の活力のもととなる朝食の習慣化を目指した指導を行う。	保健環境課	【成果指標】 生徒が朝食の大切さを理解し、朝食摂取率が向上する。	保護者へのアンケート調査において、生徒が朝食を食べて登校すると答える保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 A 評価 81% A 59% + B 22% = 81%	保健だよりの発行や、集会時に朝食摂取の大切さを呼びかけること等を通して、啓蒙活動を行った。昨年まで生徒による回答であったが、今年度からの保護者回答では81%の生徒が朝食を摂取しているという結果であった。朝食を毎日食べて登校する生徒が増加するような取り組みを今後も継続していきたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (保護者の学校評価)
		④ 朝の登校指導及び昼の校内巡視を通して、頭髪服装を整えることや、規範意識の大切さを繰り返し指導する。	生徒指導課	【努力指標】 全教職員が共通理解のもと、挨拶の励行や規範意識の向上を図るため、生徒に声をかけている。	登校指導や校内巡視の際に、生徒に声かけしているとする肯定的評価が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 A 評価 93% (昨年=91%) A 34% + B 59% = 93%	6月に挨拶運動週間として、朝の挨拶運動を教職員や生徒会執行部と公安委員で実施した結果、昨年度よりも2ポイントUPした。100%の評価を目指し、昼休みの校内巡視を含め、生徒に対して、積極的に声かけを行い、学校生活全般において、全職員で指導を徹底していき、安心・安全に過ごせる環境をつくりたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)
		⑤ いじめのない学校づくりを目指し、学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないような取組を行う。	生徒指導課	【努力指標】 教員が、アンケート調査や面談、校内巡視により、生徒の動向を掴み、いじめの未然防止に繋げている。	アンケートや面談での生徒理解や、校内巡視等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止と早期対策に努めているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 A 評価 93% (昨年=98%) A 44% + B 49% = 93%	6月に全校生徒対象に生徒指導アンケートを行い、気になる生徒にはホーム担任が個人面談を行っている。個人面談以外にも、生徒の変化を見逃さないようにアンテナを高くし、ホーム担任だけでなく、部活動顧問等が必要に応じて面談を行っている。また、毎日昼休みの学年団による校内巡視と生徒の動向把握を継続し、いじめの未然防止に努めたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)
4	地域から信頼される開かれた教育課程の推進	① 専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。	各学科	【成果指標】 工業・演劇・農業・商業の分野での地域と連携する事業や学習において実践的な取組が積極的に行われている。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取り組みができているとする肯定的評価が A 70%以上 B 60%以上 C 55%以上 D 55%未満 B 評価 69% (昨年=65%) A 25% + B 44% = 69%	サツマイモ収穫体験や観光ガイドの実施を予定している。演劇科では震災後、2回避難所に赴き歌を披露している。行事予定としては、今後も地域と連携する事業が実施予定となっているので、さまざまな活動を通して地域と関わり、生徒の自己存在感や自己肯定感の高まりにつなげていきたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
		② 生徒が意欲的に取り組むことのできる部活動を展開していく。	特別活動課 学級担任	【成果指標】 生徒が意欲的に部活動に取り組んでいる。	部活動の活動日に対して、8割以上参加しているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 C 評価 76% (昨年=79%) A 56% + B 20% = 76%	部活動未加入者が年々多くなっていることや、今年度については、3年生の部活動加入率が極端に低い。生徒に対して部活動への加入を促すとともに、生徒が自己の成長や達成感を味わえる指導の工夫や粘り強い指導が求められる。また、各部活動の成果や頑張りをさらに学校全体に共有し、切磋琢磨する関係性をつくっていききたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
		③ 本校の教育活動の様子をホームページや校門前掲示板を活用し、学校外部へ効果的に情報を発信する。	総務課 各学科	【成果指標】 学校外部への効果的な情報発信を行うことができる。	本校の教育活動の様子を学校外部に効果的に情報発信ができているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 A 評価 95% (昨年=95%) A 32% + B 63% = 95%	今年度からマニュアルを新たにし、教職員が直接記事を集めるようにしたこと、部活動の記事の更新も少しずつ増えており、このことが評価につながったと考える。特定の個人に作業が集中して負担になることがないよう、全員で情報発信を行えるよう工夫していきたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)
5	教職員の働き方改革の推進	① 教職員一人ひとりが、有機的に連携協働し、具体的な手立てを明確にすることを通して、業務の効率化に対する意識を高め、働き方改革を推進する。	各課・科・学年の主任	【努力指標】 教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいる。	教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいるとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 C 評価 71% (昨年=78%) A 22% + B 49% = 71%	全体の半分を占める若手教員を中心に、部活動指導、業務での時間外勤務が増加している。このことから、A評価が前年比6ポイント下降し、A、B合わせて71%となった。部活動指導での時間減少は難しい面があるため、教科、分掌、学年等で業務の平準化や時間外勤務減少に向けた更なる工夫をし、働き方改革の意識を高めていきたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)